

第1回機関リポジトリワーキング議事録

日時：平成18年10月20日（金）15時～17時

場所：附属図書館会議室

出席者：加藤、松井、山下、小野、若尾、岩月、土肥、阿部、今川、大森

議題

1. 当ワーキングについて

審議の前に斎藤館長から挨拶があった。

メンバー紹介の後、大森委員から【資料1】に基づき、当ワーキングの設置について説明があった。

2. 一橋デジタルアーカイブス（HDA）から「一橋大学機関リポジトリ」（HDA）への転換について

大森委員から【資料2】に基づき、説明があった。

○意見

BookParkで研究成果を公開する機関もあり、本学でも検討経緯があるが、世界的には機関リポジトリに自機関の研究成果を蓄積する傾向にある。

Webmetrics Ranking of World Universitiesなど、世界レベルでの評価につなげていくためにもネットワーク上への研究成果公表を促進することが必要である。

研究者DBへの登録は義務であるのに対し、リポジトリへの登録は任意であるが、校費での研究については登録の義務化が好ましいと考える。

3. 他大学の取組状況について

宝来主査から【資料3】に基づき、先行機関のリポジトリの紹介があり、各委員からも分野毎の状況が紹介された。

○意見

学会レベルでのデジタル化の動きがない分野でも、個人レベルでの発信が活発な場合もあるので、受け皿環境を整えることが重要ではないか。

4. コンテンツの収集活動について

宝来主査から【資料4】に基づき、先行機関の事例紹介があり、広報について各委員に協力が要請された。

○意見

社会科学系は自然科学系に比較すると、著作権の所在があいまいである。

著作権処理については出版社、共著者とも事前の取り決めがトラブル回避のためにも不可欠である。許諾する者が一見してわかるフォームの用意があればスムーズに処理ができるだろう（複製権、公衆送信権のチェックなど）。

5. 運用指針について

大川主査から【資料 5】に基づき、次回 WG での審議事項になることが説明された。

○意見

登録資格者について。発表の場を求める院生も多く存在する。

学外研究者でも本学・本学刊行物において発表した研究成果は確保すべきである。

学位論文を掲載すると本にする機会が失われる場合がある。

修士論文の扱い。

英文誌の Hitotsubashi Journal を活用すべき(学外投稿者の登録資格)。

教材の扱い。複製物の場合、著作権法に抵触する。

6. サーバ構築に向けての検討課題

大川主査から【資料 6】に基づき、サーバ構築の課題が説明され、次回 WG で仕様策定に必要な要件を審議することになった。

7. その他

今川委員からリポジトリ関連資料をまとめた HP を用意する旨発言があり、WG のドキュメントも掲載することが了解された。

附属図書館の新広報誌でも随時、リポジトリの進捗情報を紹介する。

WG 終了後、土肥委員から掲載文献の修正・削除については、必ず運用指針に盛り込むよう助言があった。

連絡事務局 情報推進課コンテンツ主担当 (内線 8247)

次回開催 11月 1日(水) 15時～

配布資料)

- 1-1 「一橋大学機関リポジトリ」の構築に関する検討組織の設置について
- 1-2 機関リポジトリワーキング委員名簿
- 1-3 経営企画委員会部会設置要項
- 2-1 機関リポジトリの構築について (2006.9.7)
- 2-2 一橋デジタルアーカイブス (HDA)の現状
- 2-3 世界の機関リポジトリの現状 (2006/10/17 現在)
- 2-4 学術情報基盤の今後の在り方について (報告) (18.3.23 科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会)
- 2-5 平成18年度年度計画より抜粋資料
- 2-6 研究者データベースシステム 入力データ項目より抜粋
- 3-1 主要IR取組状況一覧 (2006/10/10 現在)
- 4-1 機関リポジトリ収集対象
- 4-2 名古屋大学学術機関リポジトリ登録要項(2006/4 作成)
- 4-3 学術成果リポジトリと著作権の関連 (千葉大学広報資料より。2005/3 作成)
- 4-4 機関リポジトリの構築に係る著作権処理について
- 5-1 一橋デジタルアーカイブス運用指針 (素案)
- 5-2 神戸大学機関リポジトリ運用指針
- 5-3 金沢大学学術情報リポジトリ設置要項
- 5-4 金沢大学学術情報リポジトリ運用指針
- 5-5 収集方針策定にあたっての論点
- 6-1 サーバ構築に向けての検討課題